



ベゴニアの植栽に励む参加者

鹿沼・菊沢西小児童や保護者、住民

農村の景観美しく

【鹿沼】見野・富岡・下遠部環境整備協議会は11日、見野の県道沿いで花壇づくりを行った。菊沢西小の児童約50人をはじめ、保護者や自治会など計約120人が参加し、赤、白、ピンクのベゴニア1700株を植え、美しい農村の景観づくりに励んだ。

美しい草花の植栽により、通行人らに心のゆとりを持ってもらうことや地域住民の交流を図るのが目的で、今回で4回目。参加者は年々増えているという。

参加者らは、長さ約50センチにわたって色別に6列並べて植え、花壇はカラフルに。5年若林知輝君(11)は「通った時に自分たちが植えた花で道がきれいになっていくのを見るのはうれしい」と笑顔で話した。

同協議会の平井好会長(68)は「今年の菊沢西小の入学児童数は17人と、例年の10人弱と比べて増えた。若い人が地元に戻ってきており、住みやすい地域づくりの結果が出てきている」と話した。(阿部雅士)